

赤字削減・解消計画実施状況報告書

(第7年次 令和6年度分)

都道府県名	保険者番号	保険者名
鹿児島県	1	鹿児島市

①赤字の発生状況

年度(赤字発生年度)		平成28年度				赤字の原因			
法定外繰入金		2,155,417 千円				本市、国保事業の財政状況は、平成21年度の税率改定以降、保険税率を据え置いてきた。23年度まで3年間続いた単年度収支の黒字も、24年度には赤字になり、その後、赤字幅は大きくなり、27年度決算では10.5億円の単年度収支の赤字、51.7億円の累積赤字となっている。 また、例年、一般会計からの法定外繰入金約22億円(28年度は21.6億円)を加えると、実質的な赤字はさらに増大する。 赤字の要因は、被保険者1人当たりの医療費が高いことや収納率が低いことなどであり、その対応が求められている。			
繰上充用金の新規増加分		143,169 千円							
赤字額(合計)		2,298,586 千円							

②赤字削減計画実施（予定）状況

年度別赤字削減予定額（率）	計画年次	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	合計			
	年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度				
	法定外繰入の削減予定額(率)	△ 10,667 千円 △ 0.5 (%)	98,545 千円 4.6 (%)	△ 34,850 千円 △ 1.6 (%)	67,405 千円 3.1 (%)	146,338 千円 6.8 (%)	30,147 千円 1.4 (%)	296,918 千円 13.8 (%)			
	繰上充用金の新規増加分の削減予定額（率）	143,169 千円 100.0 (%)	△ 46,594 千円 △ 32.5 (%)	△ 614,142 千円 △ 429.0 (%)	660,736 千円 461.5 (%)	0 千円 0.0 (%)	△ 567,444 千円 △ 396.3 (%)	△ 424,275 千円 △ 296.3 (%)			
	合計赤字削減予定額(率)	132,502 千円 5.8 (%)	51,951 千円 2.3 (%)	△ 648,992 千円 △ 28.2 (%)	728,141 千円 31.7 (%)	146,338 千円 6.4 (%)	△ 537,297 千円 △ 23.4 (%)	△ 127,357 千円 △ 5.5 (%)			
	赤字削減額	132,502 千円 5.8 (%)	51,951 千円 2.3 (%)	△ 648,992 千円 △ 28.2 (%)	728,141 千円 31.7 (%)	146,338 千円 6.4 (%)	△ 537,297 千円 △ 23.4 (%)	△ 127,357 千円 △ 5.5 (%)			
実施状況の詳細					今後の取組						
鹿児島市国民健康保険財政健全化計画に基づき、各種保健事業の推進による医療費適正化や国保税の収納率向上などに取り組んでいる。 令和6年度は、医療費適正化対策として、特定健診受診者に対してインセンティブとして交付する入浴券について、交付対象年齢を拡大するとともに、40～50歳代に対し、SMSIによる受診勧奨通知を開始した。また、収納率向上対策として、滞納額が大きい者に対する重点的な滞納整理を実施した。 赤字削減については、令和6年度も税率改定を行わず、税率を据え置いたこともあり、計画どおりの削減には至っていない。					平成30年3月に策定した、「鹿児島市国民健康保険財政健全化計画」は、計画の進捗管理に則り、令和3年度から第2期、令和6年度から第3期に向けての計画の見直しを行った。また、国・県の方針や県内における保険料水準統一の動きも踏まえ、本市国保を安定的に運営していくために、令和7年度に税率改定を行った。 今後も、計画に基づき、医療費適正化対策、収納率向上対策などを行うとともに、法定外一般会計繰入については、「決算補填等目的とするものは、計画的・段階的に解消を図っていく」とする国の方針等を踏まえつつ、本市国保財政の厳しい状況を考慮し、当分の間は、本市独自の保健事業等に充当するとともに、税率改定も引き続き検討していく。						
○鹿児島市国民健康保険財政健全化計画											
	項目	目標 (令和7年度末)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	備考
①	1人当たり医療費伸び率 (対前年伸び率)	2.1%以下に抑制	2.4% (2.4%)	3.3% (4.1%)	3.2% (2.9%)	2.3% (△0.2%)	2.8% (4.8%)	2.9% (3.2%)	2.9% (2.9%)	2.8% (2.3%)	64歳までと比べて医療費が約2倍である65～74歳までの被保険者数の割合の増、医療の高度化
②	特定健康診査受診率	60%以上	26.6%	33.7%	34.6%	33.9%	35.6%	34.5%	34.1%	33.0%	
③	特定保健指導実施率	60%以上	38.4%	41.6%	32.9%	33.2%	26.6%	27.1%	25.5%	30.3%	
④	ジェネリック医薬品の利用状況 (数量シェア)	90%以上	78.9%	82.2%	84.5%	86.1%	85.8%	87.7%	88.4%	91.1%	
⑤	人工透析患者割合	0.6%以下に抑制	0.52%	0.54%	0.57%	0.58%	0.59%	0.58%	0.58%	0.59%	
⑥	収納率（現年度分）	94%以上	90.24%	90.81%	91.37%	92.58%	93.26%	93.09%	93.07%	92.72%	
⑦	収納率（滞納繰越分）	28%以上	20.46%	21.12%	22.33%	23.32%	21.92%	22.48%	21.92%	21.27%	
⑧	口座振替割合（普通徴収世帯）	50%以上	44.84%	45.22%	44.66%	44.91%	45.05%	44.25%	44.02%	44.19%	コンビニ納付等への移行、特別徴収者の割合増

赤字削減・解消計画実施状況報告書

(第7年次 令和6年度分)

都道府県名	保険者番号	保険者名
鹿児島県	1	鹿児島市

①赤字の発生状況

年度(赤字発生年度)		平成28年度				赤字の原因			
法定外繰入金		2,155,417 千円				本市、国保事業の財政状況は、平成21年度の税率改定以降、保険税率を据え置いてきた。23年度まで3年間続いた単年度収支の黒字も、24年度には赤字になり、その後、赤字幅は大きくなり、27年度決算では10.5億円の単年度収支の赤字、51.7億円の累積赤字となっている。 また、例年、一般会計からの法定外繰入金約22億円(28年度は21.6億円)を加えると、実質的な赤字はさらに増大する。 赤字の要因は、被保険者1人当たりの医療費が高いことや収納率が低いことなどであり、その対応が求められている。			
繰上充用金の新規増加分		143,169 千円							
赤字額(合計)		2,298,586 千円							

②赤字削減計画実施(予定)状況

年度別赤字削減予定額(率)	計画年次	第7年次	第8年次	第9年次	第10年次	第11年次		合計			
	年 度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度					
	法定外繰入の削減予定額(率)	△ 374,586 千円 △ 17.4 (%)	558,271 千円 25.9 (%)	558,271 千円 25.9 (%)	558,271 千円 25.9 (%)	558,272 千円 25.9 (%)		2,155,417 千円 100.0 (%)			
	繰上充用金の新規増加分の削減予定額(率)	62,153 千円 43.4 (%)	126,322 千円 88.2 (%)	126,323 千円 88.2 (%)	126,323 千円 88.2 (%)	126,323 千円 88.2 (%)		143,169 千円 100.0 (%)			
	合計赤字削減予定額(率)	△ 312,433 千円 △ 13.6 (%)	684,593 千円 29.8 (%)	684,594 千円 29.8 (%)	684,594 千円 29.8 (%)	684,595 千円 29.8 (%)		2,298,586 千円 100.0 (%)			
	赤字削減額	△ 312,433 千円 △ 13.6 (%)	0 千円 0.0 (%)	0 千円 0.0 (%)	0 千円 0.0 (%)	0 千円 0.0 (%)		-439,790 千円 △ 19.1 (%)			
実施状況の詳細					今後の取組						
鹿児島市国民健康保険財政健全化計画に基づき、各種保健事業の推進による医療費適正化や国保税の収納率向上などに取り組んでいる。 令和6年度は、医療費適正化対策として、特定健診受診者に対してインセンティブとして交付する入浴券について、交付対象年齢を拡大するとともに、40～50歳代に対し、SMSIによる受診勧奨通知を開始した。また、収納率向上対策として、滞納額が大きい者に対する重点的な滞納整理を実施した。 赤字削減については、令和6年度も税率改定を行わず、税率を据え置いたこともあり、計画どおりの削減には至っていない。					平成30年3月に策定した、「鹿児島市国民健康保険財政健全化計画」は、計画の進捗管理に則り、令和3年度から第2期、令和6年度から第3期に向けての計画の見直しを行った。また、国・県の方針や県内における保険料水準統一の動きも踏まえ、本市国保を安定的に運営していくために、令和7年度に税率改定を行った。 今後も、計画に基づき、医療費適正化対策、収納率向上対策などを行うとともに、法定外一般会計繰入については、「決算補填等目的とするものは、計画的・段階的に解消を図っていく」とする国の方針等を踏まえつつ、本市国保財政の厳しい状況を考慮し、当分の間は、本市独自の保健事業等に充当するとともに、税率改定も引き続き検討していく。						
○鹿児島市国民健康保険財政健全化計画											
	項目	目標 (令和7年度末)	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	備考
①	1人当たり医療費伸率 (対前年伸率)	2.1%以下に抑制	2.4% (2.4%)	3.3% (4.1%)	3.2% (2.9%)	2.3% (△0.2%)	2.8% (4.8%)	2.9% (3.2%)	2.9% (2.9%)	2.8% (2.3%)	64歳までと比べて医療費が約2倍である65～74歳までの被保険者数の割合の増、医療の高度化
②	特定健康診査受診率	60%以上	26.6%	33.7%	34.6%	33.9%	35.6%	34.5%	34.1%	33.0%	
③	特定保健指導実施率	60%以上	38.4%	41.6%	32.9%	33.2%	26.6%	27.1%	25.5%	30.3%	
④	ジェネリック医薬品の利用状況 (数量シェア)	90%以上	78.9%	82.2%	84.5%	86.1%	85.8%	87.7%	88.4%	91.1%	
⑤	人工透析患者割合	0.6%以下に抑制	0.52%	0.54%	0.57%	0.58%	0.59%	0.58%	0.58%	0.59%	
⑥	収納率(現年度分)	94%以上	90.24%	90.81%	91.37%	92.58%	93.26%	93.09%	93.07%	92.72%	
⑦	収納率(滞納繰越分)	28%以上	20.46%	21.12%	22.33%	23.32%	21.92%	22.48%	21.92%	21.27%	
⑧	口座振替割合(普通徴収世帯)	50%以上	44.84%	45.22%	44.66%	44.91%	45.05%	44.25%	44.02%	44.19%	コンビニ納付等への移行、特別徴収者の割合増